



簡易取扱説明書

車載型デジタル簡易無線機 IC-DPR100

PLUS

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。

必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなりますのでご注意ください。

Icom Inc.



はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の車載型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、取扱説明書をよくお読みいただき、本製品の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

チャンネルについて

- ◎ CH01～CH14、CH16～CH82 :陸上・海上用チャンネル
- ◎ CH15(呼出CH)★¹ :呼出用チャンネル
- ◎ CH S1～CH S15★² :上空用チャンネル

- ★¹ 一時的な呼び出しをするときに使用します。(P.2)
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている陸上・海上用チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。
- ★² 上空用チャンネルでは送信できません。
出荷時、上空用チャンネルの使用は、「OFF」(P.26)に設定されています。

ユーザー登録について

弊社ホームページ <https://www.icom.co.jp/> にアクセスしていただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→法人のお客様(または、個人のお客様)→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

本製品の特長について

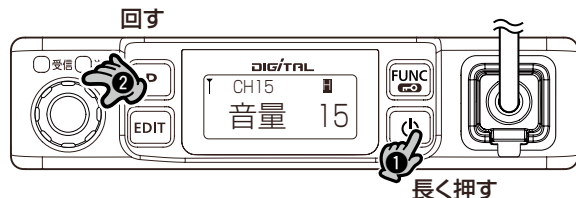
- ◎ IP54(防塵形★³と防まつ形★⁴)の性能に対応できるように設計されています。
- ◎ デジタル通信により、高音質な交信ができます。
- ◎ チャンネル番号音声案内機能により、通話チャンネルを切り替えたとき、選択した通話チャンネル番号を音声で読み上げます。
- ◎ 呼び出しメロディー機能を使用すると、ポケットビーブの代わりとして、メロディーで通知します。
- ◎ プライベートチャンネルスキャン機能により、指定した2つの通話チャンネルの信号を交互に監視できます。
- ◎ 卓上電源装置(別売品:PS-230A)と組み合わせることで、屋内のAC電源を使用できます。
- ◎ 個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」、「3T」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。★⁵
- ★³ 試験用粉塵を1m³あたり2kgの割合で浮遊させた中に8時間放置したのちに取り出して、無線機として動作すること。
- ★⁴ いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響がないもの。
- ★⁵ AMBE+2™方式を採用している機種に対応しています。

ICOM

簡単ご利用ガイド IC-DPR100

このガイドは、本製品をはじめてお使いになるかたの手に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための操作手順を説明しています。
※ 破線に沿って切り取り、折り畳んでいただくことにより、携帯できる大きさになります。

1. 電源を入れ、音量を調整する (①、②の順で操作)



2. 通話チャンネルを合わせる (①、②の順で操作)

【通話チャンネルが決まっている場合】

相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲: 01~14、16~82

※ 通話チャンネルが異なるときは、通話できません。



2. 通話チャンネルを合わせる(つづき)

【通話チャンネルが決まっていない場合】

「呼出CH」(呼出用チャンネル: CH15)に合わせます。



〈呼出用チャンネルについて〉

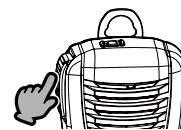
このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用します。
ユーザーコードや秘話機能を使用できません。

「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

3. [PTT]を押しつづける

「ピッ」と鳴ったら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [送信]ランプが赤色に点灯します。
- ※ [PTT]をはなすと、待ち受け状態になります。

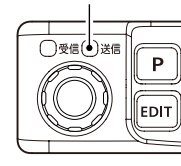


押しつづける
赤色で点灯

4. 相手の音声を受信する

相手局が送信し、その信号を受信すると、音声が聞こえます。

- [受信]ランプが緑色に点灯します。

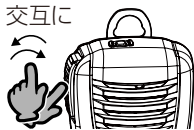


切り取り線

5. 通話をつづける

【通話チャンネルが決まっている場合】

送信と受信は交互に繰り返して通話をつづけます。



【通話チャンネルが決まっていない場合】

- ① 空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)を通話相手に伝えて、[PTT]をはなします。
- ② 相手に伝えた通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。
- ③ 送信と受信を交互に繰り返して通話をつづけます。

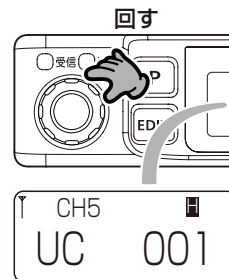
◆ 通話チャンネルに設定できる便利な機能

- ◎ 通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)には、ユーザーコード★、および秘話キー★を設定できます。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。
- ◎ プライベートチャンネル機能(P.15)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)の切り替えに便利です。
- ◎ プライベートチャンネルスキャン機能(P.16)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)の通信を交互に受信(監視)できます。

◆ ユーザーコード(UC)について(P.6)

同じユーザーコードを設定する相手とだけ通話できます。

- ① 相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。
- ② [FUNC/]を繰り返し短く押して、「UC OFF」表示を選択します。
- ③ ツマミを回して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。
※ [EDIT]を短く繰り返し押すと、編集できる桁が点滅します。
[FUNC/]を押すと、点灯が変わり、設定が確定します。



◆ 秘話機能について(P.9)

同じ秘話キーを設定する相手とだけ通話できます。

- ① 相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。
- ② [FUNC/]を繰り返し短く押して、「秘話 OFF」表示を選択します。
- ③ ツマミを回して、「秘話 ON」表示に切り替えます。
- ④ [EDIT]を短く1回押します。
※ 短く2回押したときは、編集できる桁が点滅します。
- ⑤ ツマミを回して、通話する相手と同じ秘話キー(例:00001)を設定します。
- ⑥ [FUNC/]を押すと、「秘話 ON」表示に変わり、設定が確定します。



取扱説明書の構成について

本製品の取扱説明書は、下記のように構成されています。
(2023年10月現在)

取付ガイド(別紙)

本製品の設置と接続について、説明しています。

簡易取扱説明書(本書)

はじめに本製品をお使いになる前に、知っておいていただきたい安全上のご注意や基本操作などを説明しています。

取扱説明書(PDFファイル)

グループ通話、個別呼び出しなど各機能の詳細、別売品などを説明しています。

下記URL、またはQRコードから弊社ホームページ(サポート情報→法人のお客様(または、個人のお客様)→取扱説明書)にアクセスすると、本製品の取扱説明書(PDFファイル)を検索できます。



アイコム株式会社 サポート情報
<https://www.icom.co.jp/support/>

※本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
最新の内容は、弊社ホームページで公開しています。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVSI社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Excitation)方式を採用しており、AMBE+2™方式に対応しています。

The AMBE+2™ voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #8,359,197, #7,970,606 and #6,912,495 B2.

登録商標/著作権について

アイコム、ICOM、ICOMロゴ、ポケットビープ、コマンドマイクは、アイコム株式会社の登録商標です。

QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です。

AMBE+2は、Digital Voice Systems, Inc.の商標です。

なお、本文中ではTM、®などのマークを省略しています。

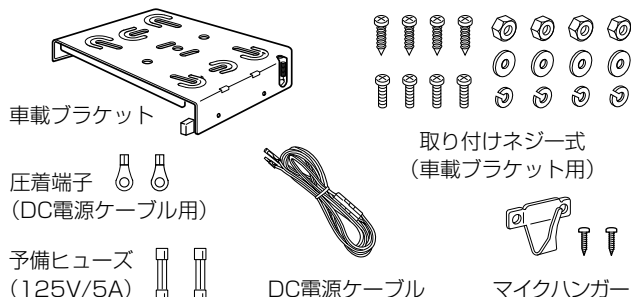
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。

本書の内容の一部、または全部を無断で複写/転用することは、禁止されています。

本製品のフォントは、モリサワのフォントを採用しております。

はじめに

付属品について



防水スピーカーマイクロホン*

- 簡易取扱説明書(本書) 取付ガイド 申請書類一式
 保証書

★防水マイクロホンは、付属品構成によっては、別売品となっている場合があります。

必要な場合は、防水スピーカーマイクロホン(HM-204)、またはコマンドマイク(HM-206)をお買い求めください。

電磁ノイズについて

以下に示すようなインバーター回路内蔵の電気製品、および電子機器の近くで使用すると、電磁ノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。

インバーター回路内蔵のおもな電子機器

- ◎LED照明器具 ◎電磁調理器 ◎給湯器
◎自動車に搭載された電子機器 ◎太陽光発電装置

防塵/防水性能について

本製品は、IP54の防塵/防水性能がありますが、完全防塵/防水構造ではありません。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- ◎雨の中や、水滴が付着、またはぬれた手で、マイクロホンを付けたり、はずしたりしたとき
- ◎防水スピーカーマイクロホン(HM-204)、またはコマンドマイク(HM-206)が接続されていない、または正しく接続されていない
- ◎落としたりして、強い衝撃が加わったとき
- ◎本製品を分解、または改造したとき
- ◎水や湯を水道の蛇口から直接当てたとき
- ◎水や海水につけたとき
- ◎ -20°C ～ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境で使用したとき

自動車運転時のご注意

- ◎安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
- ◎無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
- ◎安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。

電波法上のご注意

- ◎ 無線局の運用に当たっては、電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)
- ◎ 登録局の有効期間は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、有効期間満了の3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。
※別紙の「デジタル簡易無線局の登録申請について」に記載されている「無線局(登録/包括登録)申請手続きの流れ」をご覧ください。
- ◎ 本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
分解や改造をしないでください。
- ◎ 本製品でご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
同梱の「IC-DPR100用アンテナについて」を参考にお選びください。
技術基準適合証明(工事設計認証)で登録されていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられることとなりますので、ご注意ください。
- ◎ 他局の通信妨害や、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。
- ◎ 本製品は、日本国内における陸上、および日本周辺海域で運用する無線機です。
上空での運用はできませんのでご注意ください。
無線局登録状の範囲を超えた運用は、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

取り扱い上のご注意

- ◎ テレビ・ラジオなどのAV機器や、携帯電話などの電子機器を近くで使用すると、電波障害を受けることがありますので、はなして設置してください。
- ◎ 直射日光の当たる場所に設置したり、長時間放置したりしないでください。
移動局として車内に設置する場合、炎天下では、車内の温度が極端に上昇し、本製品に悪影響を与えます。
また、真冬は、ある程度車内の温度を上げてからご使用ください。
- ◎ 車載運用では、バッテリー保護のためにも、1日の使用が終わったときは、必ず本製品の電源を切ってください。
- ◎ 磁気カードをマイクロホンやスピーカーに近づけないでください。磁気カードの内容が消去されることがあります。
- ◎ 本製品の仕様、外観、その他の内容については、改良のため予告なく変更されることがあり、本書の記載とは一部異なる場合があります。
- ◎ 本製品の故障、誤動作、不具合あるいは停電などの外部要因により、通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益または第三者からのいかなる請求についても、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

安全上のご注意

安全にお使いいただくために、必ずお読みください。

- ◎ 使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。
- ◎ 次の「△危険」、「△警告」、「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。

△危険

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

△警告

これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

△注意

これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

免責事項について

- ◎ 地震・雷・風水害などの天災および当社の責任以外の火災、本製品の違法な使用、お客様または第三者が取扱説明書とは異なる使用方法で本製品を使用することにより生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

- ◎ 人命救助などを目的とした通信に本製品を使い、通信の途絶、故障や誤作動、電池の消耗などにより、人命に関わる事態が生じても、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

△危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。引火、火災、爆発の原因になります。

△警告

- ◎ 民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
- ◎ 電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

⚠警告

- ◎ マイクロホンのケーブルを持って、マイクロホンを振り回したり、投げたりしないでください。
本人やほかの人に当たり、けがや故障、および破損の原因になります。
- ◎ 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 指定以外の電源や電圧を使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ DC電源ケーブルを接続するときは、⊕(プラス)と⊖(マイナス)の極性を間違えないように十分注意してください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ DC電源ケーブルのヒューズホルダーを絶対に切断しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ DC電源ケーブルや接続ケーブルを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、加熱しないでください。
ショートして発火の原因になります。
- ◎ 接続がゆるかったり、DC電源ケーブルや接続ケーブルが傷ついたりしたときは、使用しないでください。
ショートして発火の原因になります。
- ◎ 長時間使用しないときは、安全のため本製品に接続する電源を取りはずしてください。
発熱、火災の原因になります。
- ◎ 雷が鳴り出したら、機器やアンテナ線、本製品のDC電源ケーブル、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルには、絶対に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎ 本製品のDC電源ケーブルや卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルにホコリが付着した状態で使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 本製品のDC電源ケーブル、卓上電源装置(別売品)の電源ケーブルや接続ケーブルの上に重いものを載せたり、挟んだりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 指定以外のヒューズを使用しないでください。
火災、故障の原因になります。
- ◎ めれた手で本製品のDC電源ケーブルや卓上電源装置(別売品)の電源ケーブル、または本製品に触れないでください。
感電の原因になります。
- ◎ 指定以外のDC電源ケーブルを使用しないでください。
火災、感電、故障の原因になります。
- ◎ 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
感電、けがの原因になります。
- ◎ 線材のような金属物を入れたり、水につけたりしないでください。
火災、感電、故障の原因になります。

安全上のご注意

⚠警告(つづき)

- ◎ 万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

- ◎ 容易に人が触れることができる場所にアンテナを設置しないでください。
送信中のアンテナは高電圧になることがあるため、感電、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 指定以外の別売品を使用しないでください。
故障の原因になることがあります。
- ◎ 電気・電子機器の動作に障害を与える場合は、送信しないでください。
ラジオやテレビなどに電波障害を与えたり、プレーヤーなどの機器が誤動作したりする原因になることがあります。
- ◎ 本製品のマイクコネクター部分に金属片やゴミを付着させないでください。
ショートして発火の原因になることがあります。
- ◎ 直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に設置しないでください。

⚠注意

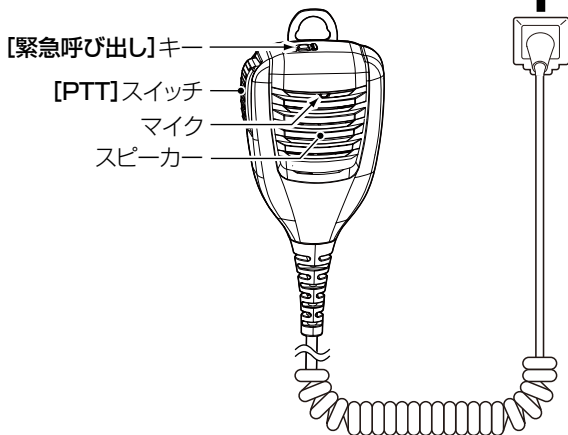
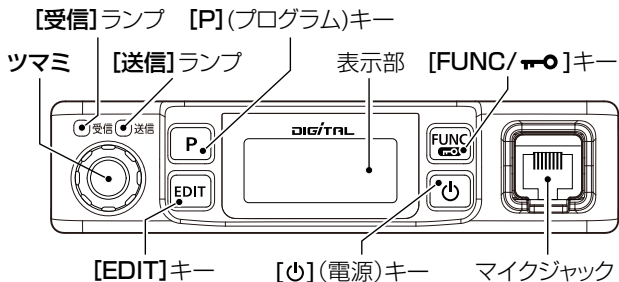
- 変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。
- ◎ -20°C ~ $+60^{\circ}\text{C}$ 以外の環境では使用しないでください。
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。
- ◎ 長時間使用すると、後面部の温度が高くなりますので、後面部に触れないでください。
また、周囲の人が後面部に触れないようにご注意ください。
やけどすることがあります。
- ◎ ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。
- ◎ 本製品を落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 本製品の上に乗ったり、ものを置いたりしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けが、故障の原因になることがあります。
- ◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

はじめに	—————	i	4 各種機能の設定	—————	20
簡単ご利用ガイド	—————	ii	■ 設定モードに移行するには	……………	20
安全上のご注意	—————	vii	■ 詳細設定モードに移行するには	……………	20
1 操作方法[基本編]	—————	1	■ 設定のしかた	……………	21
■ 各部の名称	……………	1	■ 設定項目一覧	……………	22
■ 表示部	……………	1	5 ご参考	—————	28
■ 通話するときのアドバイス	……………	5	■ 日常のお手入れと点検について	……………	28
2 操作方法[応用編]	—————	6	■ ヒューズの交換について	……………	28
■ ユーザーコードを使用して通話するには	……………	6	■ 初期状態に戻す(リセットする)には	……………	28
■ 秘話キーを使用して通話するには	……………	9	■ 故障かな?と思ったら	……………	29
3 そのほかの機能について	—————	12	■ アフターサービスについて	……………	30
■ ロック機能	……………	12	さくいん	—————	31
■ 受信電波強度通知機能	……………	12			
■ モニター機能	……………	12			
■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)	……………	13			
■ プライベートチャンネル機能	……………	15			
■ プライベートチャンネルスキャン機能	……………	16			
■ メモリーチャンネルスキャン機能	……………	17			
■ ポケットビープ機能	……………	18			
■ 呼び出しメロディー機能	……………	18			
■ 送信出力の切り替え	……………	18			
■ 着信履歴機能	……………	19			

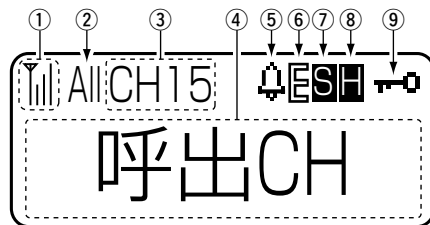
1

操作方法[基本編]

■ 各部の名称



■ 表示部

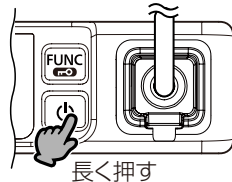


①	受信している電波の強さを4段階で表示 無 弱 中 強
②	個別呼び出しモードの表示 (All/) All : 全局呼び出し状態を表示 : グループメンバー設定されたグループ番号の表示
③	通話チャンネル、または着信などの状態を表示 CH : 各通話チャンネルの秘話機能の設定状態を表示
④	音量、通話チャンネル、ユーザーコード、秘話キー、設定モードなどの表示
⑤	点滅: 通話相手から個別呼び出しを受けたとき 点灯: ポケットビープ機能が設定されているとき
⑥	点灯: 緊急呼び出し機能が設定されているとき
⑦	点滅: スキャン中のとき
⑧	各通話チャンネルの送信出力の設定状態を表示 : 5W (High) 設定時に点灯 : 1W (Low) 設定時に点灯
⑨	点灯: ロック機能が動作中のとき

1 電源を入れる

[⏻]を長く(約1秒)押します。

- 「ピー」と鳴って、電源が入ります。



【電源を入れたときの表示】



電源投入直後



(約1秒)



呼出用チャンネル表示★

- ★ 工場出荷時や全設定初期化時は、呼出用チャンネル(CH15)が表示されます。
運用後は、前回選択した通話チャンネル(CH01～CH14、CH15(呼出CH)、CH16～CH82)が表示されます。

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、同じ相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH82)に変更してから通話してください。

2 音量を調整する

ツマミを回すと、音量を調整できます。

相手の音声聞きやすい音量レベル(表示例:15)に調整してください。

- 調整範囲:0～32

詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作を「P長 モニタ」(P.24、P.25)に設定することで、[P] を押しているあいだ、[受信] ランプが緑色に点灯します。



音量表示(表示例:15)

「ザー」という音が出ますので、この音を聞いて調整できます。
(P.12)

ご注意

音量が最小のときは、操作音(ビープ音)、通話チャンネル番号案内の音声や受信した音声は、聞こえません。

ご参考 チャンネル番号音声案内機能について

電源を入れたときや、チャンネル番号を変更したとき、選択された通話チャンネル番号を読み上げます。

※使用しないときは、詳細設定モードの「チャンネル番号音声案内」項目で設定を「OFF」にできます。

1 操作方法[基本編]

3 通話チャンネルを合わせる

- ① **[FUNC/↔]**を短く押します。
 - 表示(例:CH5)が点滅します。
- ② **ツマミ**を回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。
 - 選択範囲:01~14、16~82

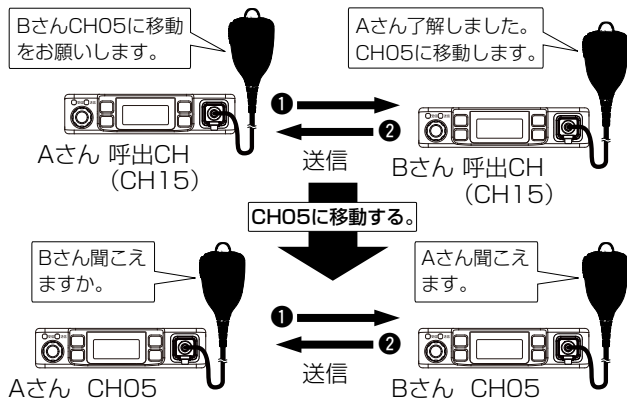
※相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

「呼出CH」(CH15)に合わせます。

「呼出CH」(CH15)は、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話、秘話機能、個別呼び出し機能による通話に使用できません。

「呼出CH」で呼び出した相手と通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに変更してから通話してください。



4 自分の音声を送信する

[PTT]を押しながら、マイクに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT]**を押しているあいだは、**[送信]**ランプが赤色に点灯します。

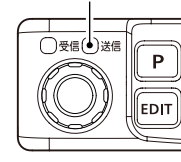
【マイクの使いかた】

マイクと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。



押しつづける
赤色で点灯



ご参考

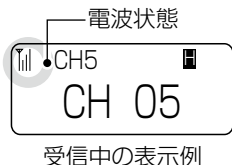
- ◎ **[受信]**ランプが緑色に点灯中は、混信防止機能(P.5)によって送信できない場合があります。
- ◎ **[PTT]**を押したとき、「ピッ」と鳴ったら、通話相手に呼びかけてください。
 - ※詳細設定モードで、送信モニター(P.22)が「OFF」に設定されているときは、「ピッ」と鳴りません。

5 相手の音声を受信する

[PTT]をはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声聞こえます。

受信中は、**【受信】**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態が表示されます。

待ち受け状態のときは、**【送信】**ランプと**【受信】**ランプが消灯していません。



通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、**【受信】**ランプが緑色に点灯し、電波状態が表示されます。

6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

※ 相手が送信しているときは、**【PTT】**を押しても混信防止機能(P.5)が動作して、「プップッ…」と鳴りつづけて、送信できません。

相手の通話が終了してから、送信してください。

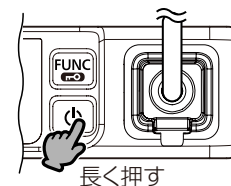
※ 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。



7 電源を切る

[ON]を長く(約1秒)押します。

- 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。



※ 電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

1 操作方法[基本編]

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、「5分以内」と電波法で定められています。

制限時間の**10秒前**になると、「ピッ」と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、「ブッ」と鳴って、自動的に送信を停止します。

※送信を自動停止すると、1分間は通話できません。

通話を再開する場合は、1分後に[PTT]を押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を本製品が受信している場合は、通話中とみなし、送信できないよう、自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。キャリアセンスは、本製品が送信を開始するときに動作します。3秒以上通話が途切れた場合、本製品が交信を終了したと判断し、次の送信開始時からキャリアセンスの機能が動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがあります。故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなる場合があります。

◇通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。(送信出力:5W)

見通しのよい場所:約10km

市街地や建物内:約1~3km

◇通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して通話してください。

また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

本製品には、3つの通信方式があります。
ご利用になるエリアや目的に応じて設定してください。

◎ユーザーコード

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、簡易的な通話グループが構成できます。

ほかの人の音声を聞こえなくして、特定の相手の音声だけを聞くときに使用します。

※通話チャンネルとユーザーコードが一致したすべての相手と通話できます。

※秘話機能や個別呼び出し機能と併用できます。

◎秘話機能(P.9)

秘話機能を設定すると、通話内容が傍受されるのを防止できます。

特定の相手にだけ音声を送信するときに使用します。

※通話チャンネルと秘話コードが一致したすべての相手と通話できます。

◎個別呼び出し(弊社ホームページに掲載)

詳細な設定をすることで「全局呼び出し」、「個別呼び出し」、「グループ呼び出し」を構成できます。

※弊社ホームページに掲載の「取扱説明書」(PDFファイル)をご覧ください。

■ ユーザーコードを使用して通話するには

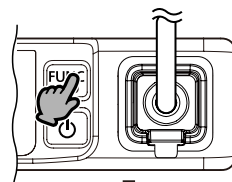
1 通話チャンネルを合わせる

① [FUNC/☎]を短く押します。

●表示(例:CH5)が点滅します。



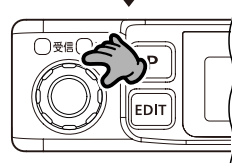
通話チャンネル表示と
ユーザーコード表示
(表示例:5チャンネル)



② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

●選択範囲:01~14、16~82

※ CH01からCH82を選択したとき、またはCH82からCH01を選択したときに、「ピピッ」と鳴ります。



ご参考 ユーザーコードの設定方法変更について

通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する場合は、詳細設定モード(P.20)の[ユーザーコード]項目で、設定を変更できます。

2 操作方法[応用編]

■ ユーザーコードを使用して通話するには(つづき)

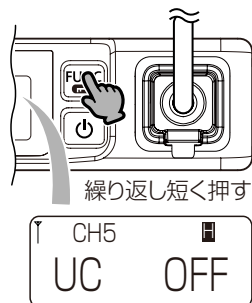
2 UC(ユーザーコード)表示にする

[FUNC/↺○]を繰り返し短く押して、「UC OFF」(初期設定時)表示を選択します。

● 「UC OFF」→「秘話 OFF」→「通話チャンネルとユーザーコード(例:CH05 OFF)」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、「通話チャンネルとユーザーコード」表示に戻ります。

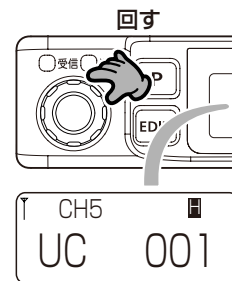
※ 「UC OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえません。



3 ユーザーコードを設定する

ツマミを回して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

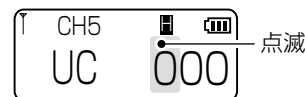
- 選択範囲: OFF(000)、001~511



【編集できる桁を変更するには】

① [EDIT]を短く押すごとに、編集できる桁が変わります。

- 編集できる桁が点滅します。



「UC OFF」表示で短く1回押したとき(例:上位1桁目)

② ツマミを回して、ユーザーコードを選択します。

※ほかの桁も編集するときは、①と②を繰り返します。

※ [P]を押すと、編集前の数字に戻ります。

③ [FUNC/↺○]を短く押して、内容を確定します。

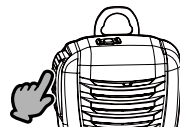
- 桁の点滅が点灯に変わります。

※約10秒後、「通話チャンネルとユーザーコード」表示に戻ります。(例:CH05 001)

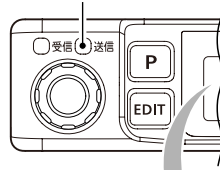
4 自分の音声を送信する

[PTT]を押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、[送信]ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色で点灯



ユーザーコード表示

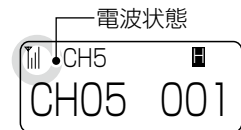
5 相手の音声を受信する

[PTT]をはなすと待ち受け状態に戻ります。

相手局が送信した信号を受信すれば、音声聞こえます。受信中は、[受信]ランプが緑色に点灯します。

また、信号の受信状態を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、[送信]ランプと[受信]ランプが消灯します。



受信中の表示例

通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なるユーザーコードを使用して通話している)の電波を受信しているときも、[受信]ランプが緑色に点灯し、電波状態が表示されます。

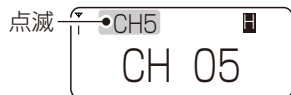
2 操作方法[応用編]

■ 秘話キーを使用して通話するには

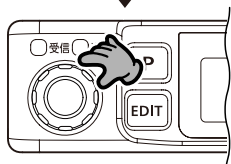
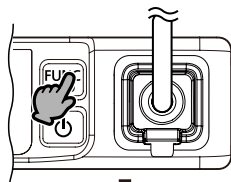
1 通話チャンネルを合わせる

① [FUNC/🔊]を短く押します。

- 表示(例:CH5)が点滅します。



通話チャンネル表示
(表示例:5チャンネル)



② ツマミを回して、相手と同じ通話チャンネルに合わせます。

- 選択範囲:01~14、16~82

※ CH01からCH82を選択したとき、またはCH82からCH01を選択したときに、「ピピッ」と鳴ります。

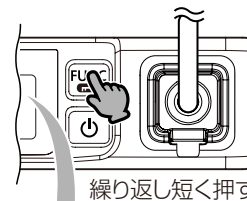
2 秘話表示にする

[FUNC/🔊]を繰り返し短く押して、「秘話 OFF」(初期設定時)表示を選択します。

- 「UC OFF」→「秘話 OFF」→「通話チャンネルとユーザーコード(例:CH05 OFF)」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えてから、何も操作しない状態(約10秒)になると、「通話チャンネルとユーザーコード」表示に戻ります。

※ 「秘話 OFF」の場合、秘話機能を使用する他局の音声は聞こえ(傍受でき)ません。



繰り返し短く押す



ご参考 秘話キーの設定方法変更について

通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用する場合は、詳細設定モード(P.20)の[秘話]項目で、設定を変更できます。

3 秘話機能をONにする

ツマミを回して、「秘話 ON」表示に切り替えます。

- 「ピッ」と鳴って、「CH」表示になります。
- ※ 「秘話 ON」の場合、自分の音声は、秘話キーが異なる他局には聞こえ(傍受され)ません。



4 秘話キーを設定する

- ① [EDIT] を短く1回押します。
 - 秘話キーが表示されます。
- ② ツマミを回して、通話する相手と同じ秘話キー(例:00003)を設定します。
 - 選択範囲:00001~32767

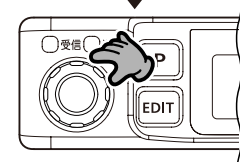
【編集できる桁を変更するには】

- ① [EDIT] を短く押すごとに、編集できる桁が変わります。
 - 編集できる桁が点滅します。



短く2回押したとき(例:上位1桁目)

- ② ツマミを回して、秘話キーを選択します。
 - ※ ほかの桁も編集するときは、①と②を繰り返します。
 - ※ [P] を押すと、編集前の数字に戻ります。
- ③ [FUNC/] を短く押して、内容を確定します。
 - 「秘話 ON」表示に変わります。
 - ※ 約10秒後、「通話チャンネル」表示に戻ります。



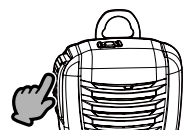
2 操作方法[応用編]

■ 秘話キーを使用して通話するには(つづき)

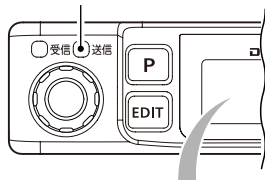
5 自分の音声を送信する

[PTT]を押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- [PTT]を押しているあいだは、[送信]ランプが赤色に点灯します。



押しつづける
赤色で点灯



秘話機能ONのチャンネル



6 相手の音声を受信する

[PTT]をはなすと待ち受け状態に戻ります。

自分と同じ秘話キーの相手局、または秘話機能を使用しない他局が送信した信号を受信すれば、音声が入ります。

受信中は、[受信]ランプが緑色に点灯します。

また、信号の受信状態を表示部に表示します。

待ち受け状態のときは、[送信]ランプと[受信]ランプが消灯します。



電波状態
受信中の表示例

通話相手以外(同じ通話チャンネルで、異なる秘話キー使用して通話している)の電波を受信しているときも、[受信]ランプが緑色に点灯し、電波状態が表示されます。

※ 他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

ご注意

機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。

また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーやボタンに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[FUNC/🔒]を長く(約1秒)押します。

- 「ビピッ」と鳴って、🔒が表示されます。

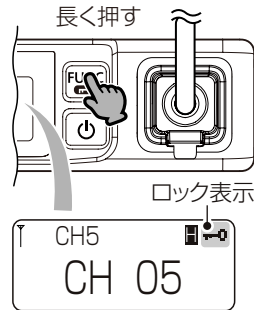
※ 同じ操作をすると、解除できます。

〈ロック中にできる操作〉

- ◎ ロック機能の解除
- ◎ 送信/受信
- ◎ モニター機能のON/OFF
- ◎ 電源のON/OFFと音量調整★

★ 音量調整がロックされるように、詳細設定モード(P.20)で変更できます。

※ エマージェンシーの設定が「ON」の場合は、キーロック中でも緊急呼び出しの操作ができます。



■ 受信電波強度通知機能

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信信号の強度が弱くなり、相手の音声途切れるなどして、通話がつづけられない状態になると、「ピンポン」と通知音が鳴ります。

※ 通知音が鳴ったときは、場所を移動して通話してください。

受信信号の強度が強くなり、ふたたび信号を受信できるようになると、通知音は止まります。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P.26)

■ モニター機能

モニター機能は、次のような場合に使用します。

- ◎ 受信音がない状態で、「ザー」という音を聞きながら音量を調整するとき
- ◎ ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき
 - ※ 他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。使用するには、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作を「P長 モニタ」(P.24、P.25)に設定してください。

【操作のしかた】

[P]を押しているあいだ、動作します。



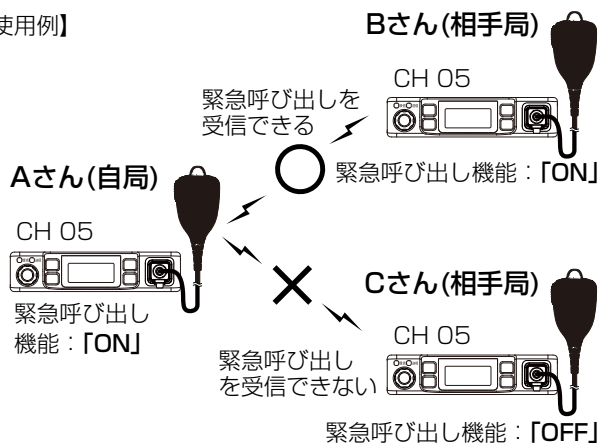
3 そのほかの機能について

■ 緊急呼び出し機能(エマージェンシー)

個別呼び出し機能による通話で、迅速な連絡が必要な場合、自分と同じ通話チャンネルで緊急呼び出し機能が設定された相手に、緊急表示と警告音で通知できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
詳細設定モードから設定を変更できます。(P.20)

【使用例】



△警告

緊急呼び出し機能(エマージェンシー)は、大きな音量の警告音が連続で鳴ります。

ツマミを回して、音量が適切な位置になっていることを確認してください。

【緊急呼び出し機能を正しく使用するには】

個別呼び出し機能(P.23)と緊急呼び出し機能(P.24)の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。
設定されていないときは、緊急呼び出しの受信、または応答ができません。

下記のような場合、正しく設定されていても緊急呼び出しが通知されなかったり、通知されても警告音が鳴らなかったりすることがあります。

- ◎音量が最小に設定されている場合
- ◎電波状況の悪化により電波が届かない場合
- ◎「呼出CH(CH15)」を選択している場合
- ◎「上空用チャンネル(S1~S15)」を選択している場合
- ◎混信防止機能(P.5)により送信制限された場合

ご注意

本製品に搭載されている緊急呼び出し機能は、電池の消耗、周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)など、周囲の環境によっては、通信できないこともありますので、高度な信頼性が必要な用途に使用されることを目的としていません。
補助的な使用を目的とした機能としてご理解ください。
緊急呼び出し機能を使用できないことが原因で発生したいかなる損害についても、弊社は一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

【緊急呼び出しのしかた】

下記の操作をすると、個別呼び出し機能が設定された自分と同じ通話チャンネルの相手へ一斉に緊急呼び出しします。

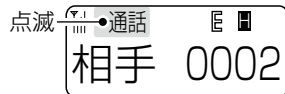
① 緊急呼び出しをする相手と同じ通話チャンネル番号を選択します。

② 「緊急」が表示されるまで、マイクロホンの<緊急呼び出し>ボタンを長く(5秒以上)押します。

- 「緊急」表示の点滅と同時に、「ピピピ…」と鳴って、一定の間隔ごとに[送信]ランプが赤色に点滅します。

③ 応答があると、警告音が停止して、[受信]ランプが緑色に点灯します。

また、応答した相手の個別番号が表示されます。(例:相手0002)



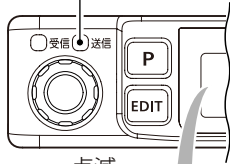
④ 待ち受け状態になったら、[PTT]を押して、交信をつづけます。

- 終話すると、緊急呼び出しをする前の状態に戻ります。

長く押す(5秒以上)



一定間隔で、赤色点滅



点滅



【緊急呼び出しを受けたときは】

① 「ピピピ…」と鳴って、[送信]ランプが赤色に点滅します。また、「緊急」と「相手局番号」を交互に表示します。

② [PTT]を押して、応答します。

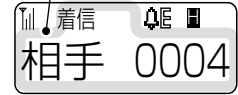
- 警告音が停止します。

③ 交信をつづけます。

- 終話すると、緊急呼び出しを受信する前の状態に戻ります。



点滅 (交互)



(例:相手0004)

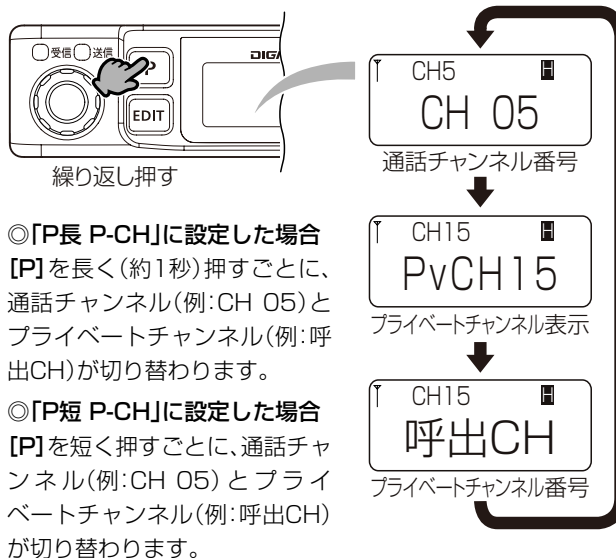
3 そのほかの機能について

■ プライベートチャンネル機能

特定の通話チャンネルをプライベートチャンネル(例:呼出CH)に設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)との切り替えが簡単になります。

- ※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。操作をする前に、詳細設定モードで、**[P]**(プログラム)キーの動作(P.24、P.25)を「P短 P-CH」、または「P長 P-CH」に設定してください。
- ※ 工場出荷時や全設定初期化時、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。詳細設定モードから設定を変更できます。(P.24)
- ※ プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、**[P]**(プログラム)キーの操作は無効です。

【操作のしかた】



■ プライベートチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネル(例:CH 05)を受信しながら、プライベートチャンネル番号(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
操作の前に、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作(P.24、P.25)を「P短 PRI」、または「P長 PRI」に設定してください。

【操作のしかた】

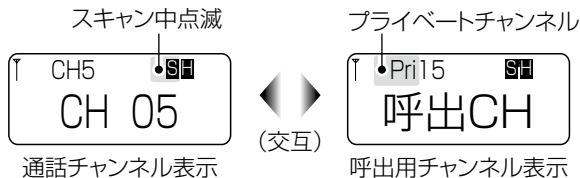
◎「P長 PRI」に設定した場合

[P]を長く(約1秒)押します。

◎「P短 PRI」に設定した場合

[P]を短く押します。

「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。



プライベートチャンネルスキャンを解除するには

[EDIT]、または[FUNC/π•]を押します。

※ スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。

※ 電源を入れなおしても、解除されません。

【プライベートチャンネルスキャンの動作について】

- ◎ プライベートチャンネルスキャン中は「S」が表示され点滅します。
- ◎ プライベートチャンネル番号に秘話キーが設定されているときは、スキャン中に、「P」が表示されます。
- ◎ プライベートチャンネル番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。
- ◎ スキャン中は、通話チャンネルで待ち受け中、2秒ごとにプライベートチャンネルをスキャンします。
スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。
- ◎ 電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定にしたがってスキャンします。(P.25)
このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。
- ◎ スキャンが一時停止中は、「P」(プログラム)キーの操作でスキャンを再開できます。
- ◎ プライベートチャンネル(P.24)に上空用チャンネル(S1～S15)が設定されている場合は、上空用チャンネルをプライベートチャンネルスキャンの対象にできます。
- ◎ スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

3 そのほかの機能について

■ メモリーチャンネルスキャン機能

よく利用する通話チャンネルと、詳細設定モードで設定したチャンネルを順次切り替える機能です。

- ※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。操作の前に、詳細設定モードで、[P] (プログラム) キーの動作 (P.24、P.25) を「P短 MC」、または「P長 MC」に設定してください。
- ※ メモリーチャンネルスキャンをお使いになる前に、「スキャンするチャンネル」(P.25) でスキャンの対象にする通話チャンネルを設定してください。

【操作のしかた】

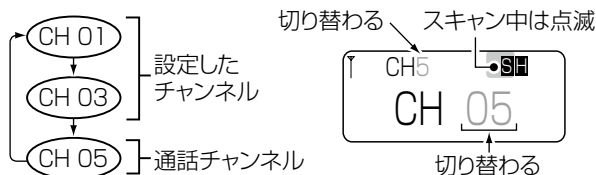
◎「P長 MC」に設定した場合

[P] を長く (約1秒) 押します。

◎「P短 MC」に設定した場合

[P] を短く押します。

【メモリーチャンネルスキャンのイメージ】



【メモリーチャンネルスキャンを解除するには】

[EDIT]、または [FUNC/] を押します。

- ※ スキャン開始と同じ操作でもスキャンを解除できます。
- ※ 電源を入れなおしても、解除されません。

【メモリーチャンネルスキャンの動作について】

- ◎ 設定したチャンネルが1件だけで、その番号と同じ通話チャンネル番号を選択しているときは、スキャンしません。
- ◎ スキャン中に緊急呼び出しをすると、スキャン動作を解除して、通話チャンネルで緊急信号を送信します。
- ◎ 電波を受信中は、詳細設定モードのスキャン停止時間とスキャン再開時間の設定 (P.25) にしたがってスキャンします。このとき、緊急呼び出しをすると、スキャン動作が解除されます。
- ◎ スキャンが一時停止中は、[P] (プログラム) キーの操作でスキャンを再開できます。
- ◎ 上空用チャンネル (S1～S15) が設定 (P.26) されている場合は、上空用チャンネルをメモリーチャンネルスキャンの対象に設定 (P.25) できます。
- ◎ スキャン中に呼び出す場合は、通話チャンネルで送信します。

■ ポケットビーブ機能

下記の呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

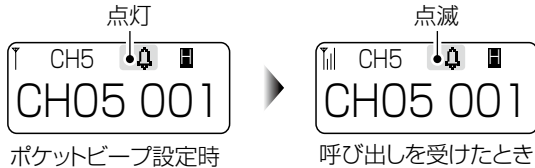
このときに鳴るビーブ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P.20)

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

🔔 の点滅とビーブ音で通知します。

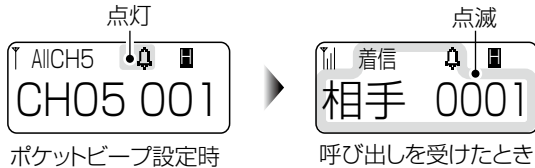


【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】

ビーブ音で通知します。

※ ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ ポケットビーブ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、🔔 の点滅だけになります。



■ 呼び出しメロディー機能

ポケットビーブ機能で呼び出しを受けたときの呼び出し音をメロディー音(9種類)に設定できます。

このときに鳴るビーブ音は、いずれかのキーの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P.20)

※ 呼び出しを受けたときの表示は、ポケットビーブ機能と同じです。

【呼び出し着信音を使用すると】

個別番号(0001~0010の10局)、グループ番号(01~10の10局)ごとに、異なる呼び出し音が設定できます。(P.24)

■ 送信出力の切り替え

[EDIT]を長く(約1秒)押すごとに、「5W(High)」「1W(Low)」を切り替えられます。

◎ 5W(High)は「」、1W(Low)は「」が表示されます。

◎ 通話相手との距離が近いときは、1Wで使用すると、消費電力を節約できます。

※ 上空用チャンネル表示(S1~S15)のときは、「」が点灯し、送信出力の切り替えはできません。(P.i, P.26)



3 そのほかの機能について

■ 着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。

記憶された相手局番号は、呼び出しに利用できます。

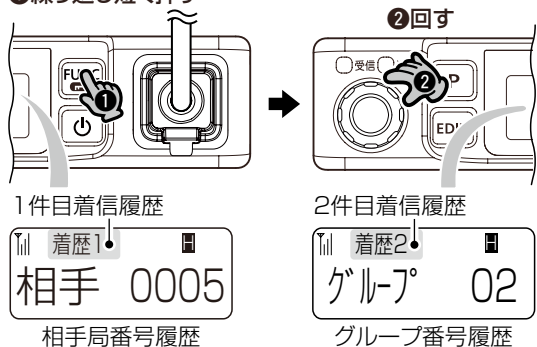
※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。

詳細設定モードから設定を変更できます。(P.23)

【着信履歴の確認と呼び出しについて】

- ① **[FUNC/←○]** を繰り返し短く押して、「着歴1」表示を選択します。
- ② 着信履歴が2件以上の場合には、「着歴1」表示の状態では、ツマミを回すと、確認できます。
※「着歴1」から順に最新の履歴となるように記憶します。
- ③ 呼び出す相手、またはグループの番号を表示した状態で、**[PTT]** を押しながら、相手に呼びかけます。
 - **[送信]** ランプが赤色に点灯します。

① 繰り返し短く押す



【着信履歴の内容や件数に異常があると思われるときは】

詳細設定モードの着信履歴消去(P.24)から履歴を消去してください。

それでも改善しない場合は、全設定を初期化(P.27、P.28)してください。

【着信履歴件数と履歴の消去について】

※ 最大10件の着信履歴を記憶できます。

10件を超えると、古い着信履歴から削除されます。

※ 全局呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

※ 着信履歴消去(P.24)は、詳細設定モードからできます。

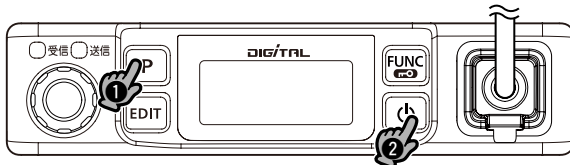
設定モード、または詳細設定モードから、本製品の各機能を変更する方法について説明します。
各機能は、運用状況に応じて、以下の参照ページからお好みの設定に変更できます。

■ 設定モードに移行するには

マイクゲイン、外部の設定と着信履歴の消去に使用します。

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切りめます。
- ② [P]を押しながら、[⏻]を押しつづけます。

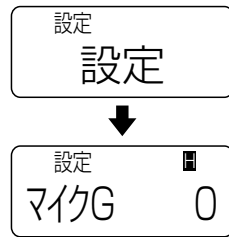


①を押しながら、②を長く押す

- ③ 「設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

● 「マイクG」が表示されると、設定モードに移行しています。

※ 設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。

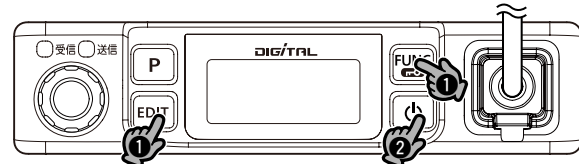


■ 詳細設定モードに移行するには

すべての機能が変更できます。(P.22~P.27)

【操作のしかた】

- ① 本製品の電源を切りめます。
- ② [EDIT]と[FUNC/↔]を同時に押しながら、[⏻]を押しつづけます。

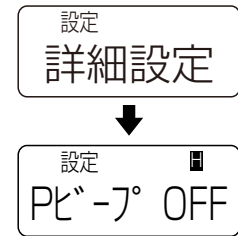


①を同時に押しながら、②を長く押す

- ③ 「詳細設定」と表示され、「ピピッ」と鳴ったら、すべてのキーから手をはなします。

● 「Pピーブ」が表示されると、詳細設定モードに移行しています。

※ 詳細設定モードに移行しているときは、呼び出しを受信できません。



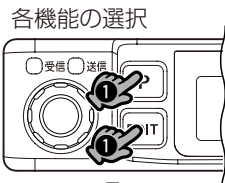
4 各種機能の設定

■ 設定のしかた

設定モード、または詳細設定モードに移行後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】








- ① **[P]**、または**[EDIT]**を繰り返し短く押して、設定項目(P.22～P.27)を選択します。
- ② 目的の機能名称で、**ツマミ**を回します。
 - 設定値が切り替わります。
 - ※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。
- ③ **[PTT]**を押します。
 - 選択した設定値を確定し、設定モード、または詳細設定モードが解除されます。
 - ※設定値を変更後に、**[P]**、または**[EDIT]**を押して、電源を切った場合でも、設定値が確定されます(全設定初期化を除く)。



※設定モード、または詳細設定モードを解除するまで通話できません。

■ 設定項目一覧








設定モード：設定モードでも変更できる設定項目です。

項目名	説明	表示名/初期値
ポケットビープ	ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。	設定  Pビープ OFF
ポケットビープメロディー	ポケットビープ着信時のメロディー音を設定します。 ※[Pビープ](ポケットビープ)を「MELO」に設定したとき表示されます。	設定   MELO 1
送信モニター	[PTT]を押したときのビープ音を設定します。	設定  TXBP ON
終話信号受信ビープ	通話相手の終話信号を受信したとき、ビープ音で通知する機能の設定です。	設定  終BP ON
秘話	通話チャンネル共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定します。	設定  秘話 CH共
マイクゲイン 設定モード	マイク感度を設定します。	設定  マイクG 0

4 各種機能の設定







■ 設定項目一覧(つづき)

項目名	説明	表示名/初期値
ユーザーコード	通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。	設定 <input type="checkbox"/> UC CH共
個別呼び出し	同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。	設定 <input type="checkbox"/> 個別 OFF
自局番号設定	個別呼び出しを受けるための自局番号を設定します。 ※ [個別呼び出し] を「ON」に設定したとき表示されます。	自局 <input type="checkbox"/> 自局 0001
相手局番号表示	個別呼び出しする相手局の番号を表示する機能です。 ※ [個別呼び出し] を「ON」に設定したとき表示されます。	FUNC <input type="checkbox"/> 相手 ON
グループ番号表示	グループ呼び出しするグループ番号を表示する機能です。 ※ [個別呼び出し] を「ON」に設定したとき表示されます。	FUNC <input type="checkbox"/> グループ OFF
メンバー指定	着信を許可するグループ番号を設定します。 ※ <input checked="" type="checkbox"/> が点灯しているグループ番号から呼び出しを受けられます。 ※ [個別呼び出し] を「ON」に設定したとき表示されます。	リスト <input type="checkbox"/> グループ 01
着信履歴	個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号やグループ番号を着信履歴として表示する設定です。 ※ [個別呼び出し] を「ON」に設定したとき表示されます。	FUNC <input type="checkbox"/> 着歴 OFF

項目名	説明	表示名/初期値
終話後表示	通話を終了後、待ち受け状態での表示内容を設定します。 ※ [個別呼び出し] を「ON」に設定したとき表示されます。	設定  終表話前
着信履歴消去 設定モード	自局番号やグループ番号の変更により、着信履歴を個別呼び出しなどに利用できなくなった場合、その履歴を消去します。 ※ [個別呼び出し] を「ON」に設定したとき表示されます。	設定  履歴 ---
呼び出し着信音	個別番号、グループ番号ごとに、異なる呼び出し音のパターンを設定します。(表示例：相手の個別番号)	OFF  相手0001
エマージェンシー	緊急呼び出し(エマージェンシー)機能を設定します。 ※緊急呼び出し機能を使用するには、この機能と個別呼び出し機能の両方を送信側と受信側の無線機に設定してください。	設定  EMER OFF
プライベートチャンネル	よく利用する通話チャンネルとの切り替え機能を設定します。 ※「ON」に設定すると、[P]キーによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。	設定  PvCH ON
プライベートチャンネル番号	特定の通話チャンネルをプライベートチャンネルに設定します。 ※ [PvCH] (プライベートチャンネル) を「ON」に設定したとき表示されます。	Pv/PvScn  PvCH 呼出
[P]キーの短押し	[P] を短く押したときの動作を設定します。	設定  P短 ホーム

4 各種機能の設定

■ 設定項目一覧(つづき)

項目名	説明	表示名/初期値
[P]キーの長押し	[P]を長く押したときの動作を設定します。	設定  P長 P-CH
スキャンするチャンネル	スキャンする通話チャンネルをメモリーチャンネルに設定します。 ※ [P]キーの短押し、または [P]キーの長押しの設定を、「MC」に設定したとき表示されます。	SCAN  CH 01
スキャン停止時間	電波を受信中、プライベートチャンネルスキャン、またはメモリーチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。 ※ [P]キーの短押し、または [P]キーの長押しの設定を、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。	SCAN  停止 10S
スキャン再開時間	スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。 ※ [P]キーの短押し、または [P]キーの設定を、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。	SCAN  再開 5S
通話後スキャン動作	スキャン中、[PTT]を操作したときのスキャン動作を設定します。 ※ [P]キーの短押し、または [P]キーの設定を、「PRI」、または「MC」に設定したとき表示されます。	SCAN  話後 解除
キーロック時の音量操作	ロック機能動作中の音量操作についての設定です。	設定  □ック VOL

項目名	説明	表示名/初期値
外部スピーカー 設定モード	外部スピーカーを接続したとき、スピーカーマイクから音を出力するかしないかの設定です。	設定 EXSP AUTO
チャンネル番号音声案内	通話チャンネル番号を読み上げる機能の設定です。	設定 案内 ON
受信電波強度通知	受信電波強度通知機能の設定です。	設定 受通 OFF
上空用チャンネル	上空用チャンネル(S1～S15)の使用を設定します。 ※上空用チャンネルでは、送信できません。	設定 SKyR OFF
LCDコントラスト	表示部のコントラスト(濃淡)を調整します。	設定 LCD 12
LCDバックライト 設定モード	送信以外の操作をすると、表示部とキーの照明を自動点灯させるかさせないかを設定します。	設定 ライト ON
LCDバックライト輝度 設定モード	表示部と各キーの照明の明るさを設定します。	設定 輝度 4

4 各種機能の設定

■ 設定項目一覧(つづき)

項目名	説明	表示名/初期値
全設定初期化	すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。	設定 リセット NO

全設定初期化時のご注意

設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ 日常のお手入れと点検について

◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。

ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。

ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

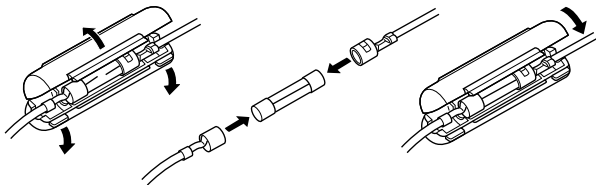
◎ 音量が最小に調整されていないか、ツマミを回して、表示部の音量レベル(P.2)を確認してください。

◎ 車載でご使用になるときは、アンテナが確実に固定されていることを点検してください。

■ ヒューズの交換について

DC電源ケーブル(付属品)には、2本のヒューズ(125V/5A)が使用されています。

※ヒューズが切れて動作しなくなったときは、原因を取り除いてから新しいもの(付属品)と交換してください。



■ 初期状態に戻す(リセットする)には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

【操作のしかた】

① 詳細設定モードに移行します。(P.20)

- 「Pビープ OFF」が表示されます。

② [EDIT] を1回押します。

- 「リセット NO」が表示されます。

③ ツマミを回して、「リセット YES」表示を選択します。

④ [PTT] を短く押します。

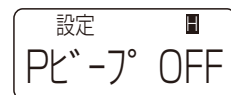
- 設定値がリセットされ、無線機が再起動します。

【ご注意】

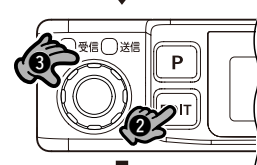
設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で、エンジンを始動させるなどして、一時的に電源が切れると、故障の原因になることがあります。

① 詳細設定モードに移行する



移行直後の表示(例:OFF)



5 ご参考

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(P.30)までお問い合わせください。

現象	原因	処置	参照
電源が入らない	接続端子の接触不良	バッテリー、または卓上電源装置(別売品:PS-230A)との接続を確認する	—
	DC電源ケーブルのヒューズが切れている	原因を取り除いたあとで、新品のヒューズと交換する	P.28
スピーカーから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量レベルを確認する	P.2
	外部スピーカーの設定が正しくない	詳細設定モードで、外部スピーカーの設定を確認する	P.26
	防水スピーカーマイクロホン、または外部スピーカー端子の接触、または接続されていない	防水スピーカーマイクロホン、または外部スピーカーが正常に接続されてるか、ケーブルが断線していないかを点検する	—
送信できない (ブプッ・・・が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P.5
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	[受信]ランプ(緑色)が消灯してから送信する	P.5
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P.3
	ユーザーコードの設定を間違えている	相手と同じユーザーコードを設定する	P.6
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P.9
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	—
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P.5
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の設定ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH82)に変更する	P.3
「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P.12
モニター機能が使用できない	モニター機能を[P](プログラム)キーで動作するように設定していない。	詳細設定モードで、[P]キー長押し動作を「モニタ」に設定する	P.25
スキャン機能が使用できない	スキャン機能を[P](プログラム)キーで動作するように設定していない。	詳細設定モードで、[P]キー短押し、または[P]キー長押し動作を「PRI」、「MC」に設定する	P.24

■ アフターサービスについて

「故障かな?と思ったら」(P.29)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

● 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

● 弊社製品のお問い合わせ先について

お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社 サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ 携帯電話・公衆電話からのご利用は、

06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00~17:00)

電子メール: support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ: <https://www.icom.co.jp/>

さくいん

	C		あ
CH15	i、2	アンテナ.....	vi
	L		え
LCD		エマーゲンシー.....	13、24
LCDコントラスト.....	26		お
LCDバックライト.....	26	音声案内機能.....	2
LCDバックライト輝度.....	26	音量調整.....	2
	P		か
[P]キー		海上用チャンネル.....	i
[P]キーの短押し	24	外部スピーカー.....	26
[P]キーの長押し	25		き
	U		
UC(ユーザーコード)	7	キーロック時の音量操作.....	25
		輝度.....	26
		キャリアセンス.....	5
		距離(通話範囲).....	5
		緊急呼び出し機能.....	13、24
			<
		グループ番号表示.....	23

こ

個別呼び出し…………… 6、23
 混信防止…………… 5

し

自局番号設定…………… 23
 終話後表示…………… 24
 終話信号受信ビープ…………… 22
 受信電波強度通知機能…………… 12、26
 上空用チャンネル…………… i、26
 詳細設定モード…………… 20

す

スキャン
 スキャン再開時間…………… 25
 スキャンするチャンネル…………… 25
 スキャン停止時間…………… 25
 スキャン動作…………… 25

せ

設定モード…………… 20
 全設定初期化…………… 27

そ

相互使用…………… 30
 送信時間制限装置…………… 5
 送信出力の切り替え…………… 18
 送信モニター…………… 22

ち

着信
 着信履歴…………… 23
 着信履歴機能…………… 19
 着信履歴消去…………… 24
 着歴…………… 19
 チャンネル番号音声案内機能…………… 2、26

つ

通話チャンネル…………… 3
 通話範囲…………… 5

て

電波干渉…………… 5
 電波法…………… vi
 電波利用料…………… vi

ひ

ヒューズの交換…………… 28
 秘話…………… 22
 秘話機能…………… 6

さくいん

ふ

プライベートチャンネル	
プライベートチャンネル	24
プライベートチャンネル機能	15
プライベートチャンネルスキャン機能	16
プライベートチャンネル番号	24

ほ

防塵性能	v
防水性能	v
ポケットビープ	22
ポケットビープ機能	18
ポケットビープメロディー	22

ま

マイクゲイン	22
--------	----

め

メモリーチャンネルスキャン機能	17
メンバー指定	23

も

モニター機能	12
--------	----

ゆ

ユーザーコード	6、7、23
---------	--------

よ

呼出CH	2、3
呼び出し着信音	18、24
呼び出しメロディー機能	18
呼出用チャンネル	i、2

り

陸上用チャンネル	i
リセット	27、28

ろ

ロック機能	12
ロック中にできる操作	12

How the World Communicates

～コミュニケーションで世界をつなぐ～

A7133D-1J-6

Printed in Japan

© 2014–2023 Icom Inc. 202310

アイコム株式会社

547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32